２０２６（令和８）年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和８年７月２２日（水）午後５時３０分～
●会　場　釧路市生涯学習センター８階　８０２・８０３
●出席者　４４人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕
（１）釧路市の財政状況及び事務事業見直しの今後の取り組みについて
（２）釧路短期大学の公立化について
（３）北陽高校移転の検討について
（４）令和８年度の市の取り組みについて

●質疑応答
【参加者Ａ】
財政に余裕がなければ行政サービスや市の魅力の低下につながり、魅力あるまちづくりはできないのではないですか。ふるさと納税に限らず、財政を絞るのみではなく増やす部分について、考えている部分はありますか。また、学校の統廃合の問題もありますが、北陽高校を新しくしたところで学校を維持できるのでしょうか。人口が減ると魅力的なまちづくりもできません。今ある市民の方々を増やすより外からの人を増やさなければならないのではないでしょうか。その部分についてアイデアなどがあれば教えてください。

【市長】
ふるさと納税は過去最高額になりました。エッセンス等については白糠町へ聞いて、反映させながら進めているところです。ふるさと納税は、全国的にも競争が激しくなっており、一朝一夕で伸ばしていくことは難しいですが、中間業者を新しくして魅せ方や価格帯など細かい部分を担当部署であるマーケティング戦略室とやり取りしながらすすめており、今後も伸ばしていきたいのでもう少し見守ってください。
事務事業の見直しで貸館料金等の見直しなども行っていますが、光熱水費、人件費が上がっている中で、受益者負担の部分は上げる必要があります。今までやってきた事業も見直し、時代に合わせて廃止する部分と守る部分を、今に合わせて予算づくりをしていきます。二地域居住の説明もしましたが、釧路の涼しさを全面的に打ち出していくなど自然の売りを大事にしながら稼ぐところについて力を入れていきたいと思います。

【教育長】
ご指摘のとおり児童生徒数の減少は顕著です。令和４年に小中学校については 10 年の期限を設けて、小中連携を進めながら施設一体化の義務教育学校を推進する計画を策定し、その計画に基づき大楽毛と音別の２校が本年４月に開校したところです。今後も各地域の状況に対応して進めていく予定であり、本計画の中間年である令和９年に、改めて現状を踏まえて検討しながら取り組みを進めていく予定です。実際、かなりのスピードで生徒数が減少しており、令和 10 年に明輝高校の校舎を活用して商業高校と明輝高校の再編統合による新

設校ができます。結果としては商業高校が空き校舎になり、西地区から高校がなくなり高校空白地になるため、防災の観点や西地区の子どもたちの通学条件の確保も含め、令和 13 年度に北陽高校を商業高校の校舎跡に移転をすることについて検討を進めています。

【参加者Ｂ】
学びの多様化学校くしろ創明学園の開校にあたり、まなびや城山・鳥取という不登校支援の場の閉所が検討されているのは事実でしょうか。もし事実である場合、教育委員会としてどのように考えていますか。

【教育長】
まったくそのようなことは考えていません。

【参加者Ｃ】
北陽高校の移転について、「外国語教育や国際教育に重点をおいた特色ある学校づくり」とありましたが、外国語教育という点について何か考えていることはありますか。日本人教員だけでは外国語教育は難しいです。欧米の文系大学院出身者で失業している方などを外国語教育のため市で取り入れるなど可能ではないでしょうか。市のほうで具体的に施策を検討しているものはありますか。

【市長】
小中学校で ALT の増員をしたところであり、外国人との触れ合いも含めて子どもの段階から英語の基礎力を育んでいきたいと思っております。高校の段階では市立である北陽から力を入れていきたいと思っており、短期留学への補助制度を作ったところです。検討段階ではありますが、今後は国際バカロレアという世界基準の教育システムを取り入れていきたいと考えております。外国人の教員を地方で採用することはハードルが高いですが、ALT の方を特別に教員として採用できる ALT 特別選考という仕組みも取り入れながら、ネイティブの教員を増やしていきたいです。

【参加者Ｄ】
北陽高校の移転は生徒数の増加にはつながらないと思います。小中学校であればその地域に学校が必要だが、高校は自分が行きたい学校・魅力ある学校へ行くので、生徒数が増えるとは思えません。また、北陽高校移転の改修費は道教委での負担と聞きました。これは道教委のどなたと話して改修の件を確約いただいているのかお聞きしたいです。

【教育長】
商業高校と明輝高校の統合で西地区から学校がなくなり、西地区の学生が東地区の学校へ通う不便さもあります。道教委へは市長と私で要請をしているところです。改修作業は令和 12 年度から始まる予定であり、令和 12 年度予算となりますが、自治体の予算は年度ごとで組むため、現時点での確約はできないものの、今後も引き続き要請していこうと考えております。

【参加者Ｄ】
　防災の観点から商業高校を使ってと要望したのですか。市教委はどのように動いたのですか。

【教育長】
　商業高校の関係者が道教委に要望したことを報道で知り、その後は関係者と話し合いをしているところです。

【参加者Ｄ】
　防災の観点から明輝高校より商業高校が良いと市は要請したのですか。

【教育長】
　現在協議中の内容ですが、９月には明輝高校の校舎を活用することが確定すると思われます。まちづくりの観点から西地区の拠点をなくしてはいけないと常々申しているところです。

【参加者Ｅ】
　町内会の加入率低下、防犯灯の問題について、以前から対応をお願いしていますがそろそろ結論を出してほしいです。９万世帯以上いる中で、５万世帯以上が町内会費の支払いをしていません。市での取り組みを強化してほしいです。

【市長】
　町内会加入率が 50%を切り、高齢化も進んでいます。今年度街路灯補助の上限額を引き上げましたが、それでも追いつかないという声をいただいています。そこで庁内でワーキンググループを作り、各地域の状況も検討しながら市内で一律化して進められるよう検討中であり、全員で考えていきたいと思います。

【参加者Ｆ】
　私は転勤族ですが、北海道物産展に行くと、他のまちより釧路市のアピールが下手だと感じます。少子高齢化が進んでいる中で、観光に力を入れているまちが多い中、観光に来ても、どこに相談してよいかわかりません。一度来た観光客を何度も来させるような工夫が必要ではないでしょうか。

【市長】
　観光施策について、パンフレットの作成等をしています。市役所内での事務事業の見直しをする中で、必要のない事業は廃止することで新しいものに取り組めるよう検討をしているところです。物産展については、いただいたご意見を物産協会のほうにも伝えながら進めていきたいと思います。また、現在市民のガイドの方にも活躍していただいており、幣舞橋のたもとにあるガイドステーションも親切に対応してくださっています。釧路の魅力を観光客の方へ少しずつ伝えていきたいと思います。

【参加者Ｇ】
今年２月、避難場所４６か所変更の周知がありました。廃止された場所もありましたが、それを知らない人もいます。避難場所の周知は大事であり、市 HP での周知のみでは不足していると思います。更新した一覧を掲載するだけでは変更箇所が分からないため、そのページに変更した箇所を記載してほしいです。高齢者はデジタル媒体をほとんど見ていません。マスコミを使って報道してもらうなど、紙媒体での周知をお願いしたいです。

【内田総務部長】
本年 2 月に津波からの避難場所に求められている基準の一つである「耐浪性」が確認出来なかった施設 28 か所と、社屋の建替えにより除却が予定されている建物１か所の計 29 か所について、避難場所の指定を解除しました。今回解除された施設には民間施設も多く含まれており、耐浪性とは避難場所にのみ必要な要件で、建物の通常利用については何ら問題がないことなど、詳細に説明を行わないと施設の風評被害に及ぶ可能性があったため、町内会長へ直接お会いして誤解のないように説明し、最新の避難場所について「くらしの便利帳」やホームページでの公表としたところです。なお、現在、既存施設の新たな指定に向けた交渉を行っているほか、先日、大楽毛南 4 丁目に整備した避難場所の様に、新たに避難場所が増えた際には、市ホームページや町内会への配布等、市民周知を行っていきます。

【参加者Ｇ】
人の命と風評被害とでは、人の命の方が大事だと思います。公表すべきです。

【市長】
市民の命は当然大事です。しかし、耐浪性を見ると、結構な数の建物が条件に当てはまらなくなるため、建物の所有者と周知の方法を検討していく必要があります。また、広報くしろでもハザードマップや避難所の周知はしていますが、いただいた意見も取り入れながら進めさせていただきます。

【参加者Ｈ】
二地域居住等促進事業についての説明がありましたが、市の職員を中心部に移住させたらにぎわうと思います。市の職員は財力があるから、例えば職員 100 名が中心部に住めば、特段何もしなくてもいろいろな問題がクリアになっていくと思います。

【市長】
住むところについては憲法で保障された個人の自由があるので、市の職員に強制できませんし、そのような促進はしたくないです。

【参加者Ｉ】
鶴間市長が公職選挙法違反の疑いで刑事告発されたことを受けて、昨年９月の議会で「市民等への責任ある説明と誠実な対応を求める決議案」が可決されました。いつになったら誠実に対応するのですか。

【市長】
常に誠実に対応しています。

【参加者Ｂ】
市立病院の新棟建設に伴い病床数が減少するとのことですが、精神科医療の不足について、市ではどのような対策をしているのですか。

【市長】
現在、入院治療から通院治療へ形態が変わってきています。診療所等開設助成金制度を取り入れながらいくつか開院したところもあり、少しずつ改善してきていると感じています。

【参加者Ｂ】
補助金の見直しをしているとのことだが、その補助金も対象なのですか。もし対象で、補助が減額するのであれば、状況は悪化するのではないですか。

【市長】
検討段階ではあるが、この補助金は守っていきたいと考えています。

【参加者Ｊ】
空き家対策の推進はどうなっているのですか。空き家は、劣化がひどいものもあり、壁が割れているものもあります。市の空き家管理の方法や所有者に対する働きかけをやっていたとしても、市民には見えてこないです。

【熊谷住宅都市部長】
空き家は職員の定期的な見回りや市民の通報を受けながら把握をしています。特定空き家については、市から解体補助金を出しており、最近企業版ふるさと納税を受けて補助額を 30 万円から 50 万円へ引き上げたところです。市民への周知については、これから行うところですが、しっかり広まるようにしていきます。

【参加者Ｊ】
宅建協会と協力して積極的に売り出すことはしないのですか。

【熊谷住宅都市部長】
宅建協会とはすでに連携しており、活用できるものがあれば市場へ出しています。所有者への働きかけについては、亡くなった方をたどり、遺族とのやり取りなどに時間と労力がかかっているのが現状ですが、防犯・景観の観点からも改善できるよう引き続き取り組んでいきます。

【参加者Ｋ】
市立病院の新棟建設の影響で、市立病院前の三叉路の渋滞がひどいので対策してほしいです。

【市長】
　右折レーンを作って拡充しました。

【参加者Ｋ】
　足りません。午前９時３０分前後がひどく、幣舞中学校との間も混雑しています。

【市長】
　すぐに対応することは難しいですが、どうにか対策できないか担当部署と検討します。

【参加者Ｄ】
　道教委に商業高校が防災の拠点だという主張をしたのですか。まちづくりの観点から、明輝高校を使わず商業高校を使ってほしいと言ったのかを確認したいです。

【教育長】
　それがポイントになっていたことは事実です。ただ、道教委の判断としてより築年数の浅い明輝高校という判断になったということです。

【市長】
　北海道の協議会に参加しましたが、市が意見を言える場ではなく、あくまで決定の主導権は道教委にあるものです。

【参加者Ｄ】
　道教委がお金を出すから商業高校に移転するのではないですか。道教委がお金を出さなかったら市単独で出せるのですか。

【市長】
　お金の問題ではなく、市立の北陽高校を守りたいという思いがあります。